

欧州馬術レポート

週刊 Gallop 2020年2月号掲載

馬耳蘭風 —オランダ奮闘記—

佐々紫苑

Shion Sassa



昨年の11月3日号のギャロップの表紙を飾ったアーモンドアイ。この馬のつぶらな瞳はまさに「アーモンドアイ」で、イメージ通りの馬名とその顔立ちは一度見たら忘れられません。

私のパートナーであるQUANDOはイタリア語で、英語でいうwhenにあたる意味があります。正式名はQUANDO QUANDOと2回繰り返します。実はこの名前、イギリスでその昔大ヒットした「QUANDO QUANDO QUANDO」

という有名な曲からつけられたそうで、好きな人に、「ねえいつ、いつ会えるの?」というラブソングです。

以前、試合会場の走行前のアナウンスで、歌詞に合わせて「tell me Quando Quando Quando…」と甘いささやき(笑)で歌いながら紹介されたり、走行時に曲を流してもらったこともあります。

先日の国際試合では、オランダの選手が『Nippon quality』

(写真) という馬に乗っていました。これはまさに東京五輪を意識した名前でしょうか。「TOKYO」のついた名前の馬もすでに何頭も出てきています。ちなみにロンドン五輪銀メダリストのオランダの選手の乗馬は『London』という名前でした。半年後の東京オリンピック、馬名だけでなく乗り手も「NIPPON」で表彰台を狙います。

(本人提供)



Let's enjoy Dressage

高田茉莉亜

Maria Takada



アイリッシュアラン乗馬学校所属

◆高田茉莉亜

(たかだ・まりあ)

1994年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。2010、11年に全日本ジュニアライダー馬場馬術選手権連覇。16年の全日本ヤングライダー馬場馬術選手権で史上初の4連覇を達成した。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

私と愛馬ブリタニアの3年目の競技シーズンがはじまりました。今年の初競技も慣れ親しんだドイツ北部の競技会場から。思い返せば2年前、初めてドイツで出場した競技もこの会場でした。その頃に比べればブリタニアとの信頼関係も深まり、お互いに助け合えるようになった気がしたり、しなかつたり…。

「肝っ玉母ちゃん」とあだ名をつけたくなるほど、競技場でも頼もしいブリタニアですが、今回はなぜか入厩時からソワソワしていました。準備運動をしてもいつもと違う感覚。珍しくブリタニアが緊張している。こんなときは助けてあげる乗り方をしなければ!と思いながらも、私の引き出しのどの段をあけてもうまくいかず…。どう対処すればいいか分からず不安なまま本馬場へ。案の定ミスが出て、今年は幸先の悪いスタートを切ってしまいました。

幸いにも2日間の競技だったので、初日のビデオを見て一晚研究し、2日目は修正して何とか4位入賞! 2年間乗っていても、まだまだ知らない一面があることを知った競技会となりました。今年も一年、さらに信頼関係を深められるように頑張ります!



ツヤツヤピカピカの愛馬。ありがたう!

いつも頑張ってくれて(本人提供)